

一緒に考えませんか？ 公共施設のこれからを / 大江山地域のまちづくり

[発行者] 大江山地域実行計画コミュニケーション事務局
江南区地域総務課 ☎025-382-4619 財務部財産活用課 ☎025-226-2387

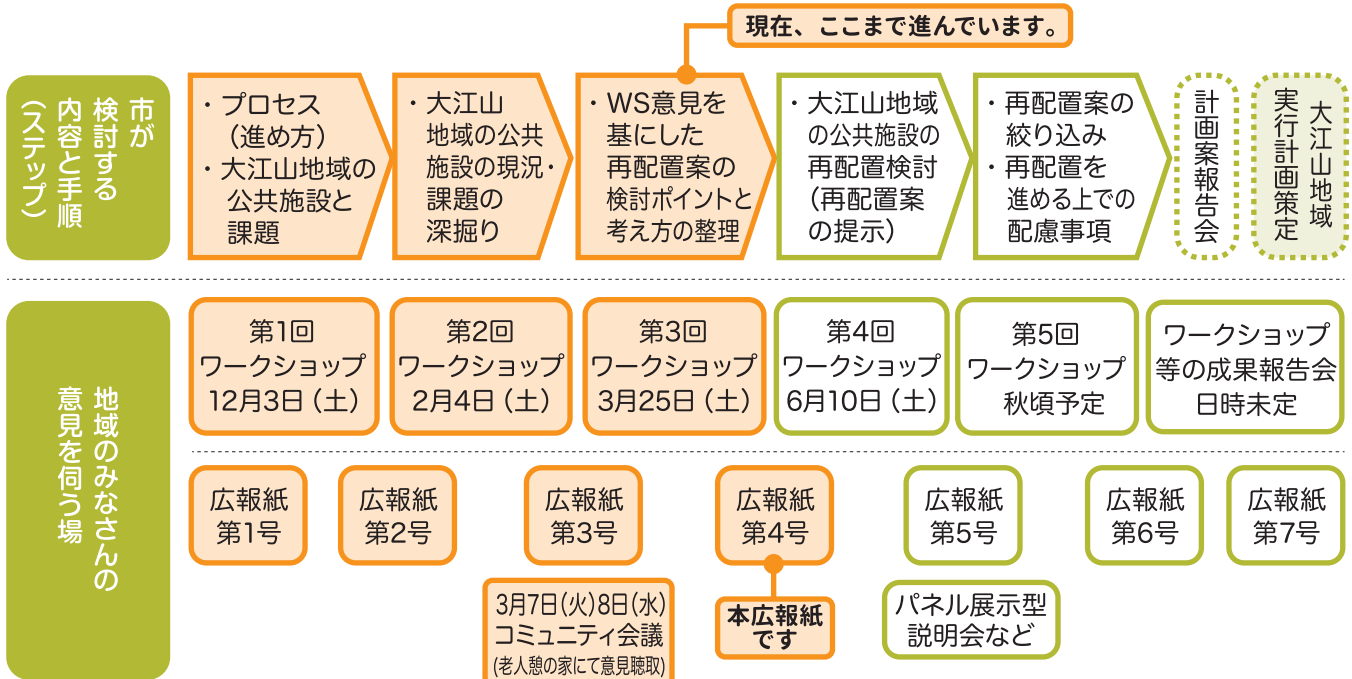
令和5年5月発行

新潟市では、「財産経営推進計画」に基づき、地域の身近な公共施設については、地域のみなさんと市が協働で、そのあり方について検討しています。

大江山地域では、地域の活動拠点である大江山農村環境改善センターが大規模改修の目安である築40年を超えていることを機に、大江山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいのみなさんと市が共に考えるワークショップ (WS) を令和4年12月から進めています。

大江山地域の公共施設のあり方について検討を進めています

第1回WS (令和4年12月3日開催)、第2回WS (令和5年2月4日開催) で、大江山地域の公共施設の現況と課題を深掘りし、第3回WS (令和5年3月25日開催) では再配置案の検討ポイントと考え方について話し合いました。今後、第4回で再配置案を検討し、第5回で案の絞り込みを行う予定です。



WSだけでなく、広報紙やパネル展示型説明会など、地域のみなさんのご意見を伺う様々な機会を設けていきます。市は、いただいたご意見をもとに、地域の公共施設の将来のあり方を示す「大江山地域実行計画」を策定します。

江南区親善大使
「**姫ちゃん**」

大江山地区出身
越後姫のキャラクター



第3回
WSの議論の概要は
2・3ページを
ご覧ください。



第3回WSの様子 大江山農村環境改善センターにて

WSの概要

第3回 令和5年3月25日 (土) 午前9時～正午 会場 大江山農村環境改善センター

参加者数 26名

資料 当日の資料は市ホームページ (右の二次元コード) に掲載しています。



第3回ワークショップで出された意見（抜粋）

第3回WSでは、前回までの話し合いをふまえ、事務局が課題解決のアイデアを整理して作成した「再配置案の検討パターンのポイントと考え方」（P.4とP.5）を見ながら、良いところ、気になるところ、不足しているところを確認し、第4回WSで検討する再配置案を作成するためのポイントと考え方を整理しました。

※文中の部屋や棟の番号などについては、P.6の平面図を参照してください。

※「大江山農村環境改善センター」は「農改センター」、「老人憩の家」は「憩の家」と略記します。

1.大江山農村環境改善センター

- 各部屋の位置、大きさ、構造、数、必要な機能、利用状況などを改めて見直し、多様な用途で利用の可能性を探る必要がある。
- ホール入り口の雨漏れは、雨どいを、設けてバケツは置かないようにしてもらいたい。
- 改修にしる、建て替えにしる、多目的ホールはスポーツや文化、イベントなど様々な地域活動に利用されており、地域の中心にある拠り所として、現状のような広いスペースがあった方がよい。
- 多目的ホールをより幅広い年齢層の人が柔軟に利用できるよう工夫する必要がある。
- 改修案は部屋数が多く、広いスペースが確保できるのに対し、建て替え案は面積が3分の1程度に減築されるため、財政的事情とこれまでの話し合いで出された「学習スペースの確保」などのニーズを両立させることは難しいのではないか。
- 利用率の低いところは縮小統合には賛成。建て替えは必要な機能を取り入れた上で、面積を縮小するとよい。
- 配布資料の改修イメージを見て、リフォームでもきれいになると分かったので建て替えてなくともよい。リフォームは必要な部分のみリフォームすればよい。一部建て替え、一部リフォームなど、バリエーションがあるとよい。費用も比べてみたい。
- A棟の建物を壊して駐車スペースを広げるほか、子どもたちの顔が見えることで交流が生まれるように、ロビーや貸室などのそばに学習室を配置するようなリフォームをしてはどうか。
- 多目的ホールは残して改修し、他の部屋は3階建てに建て替えて防災拠点としてエレベーターも設置する、改修と建て替えの折衷案を提案する。駐車場の狭さや分かりづらさも解決される。
- 3階建てになればエレベーターは必要になるが、新潟市の資料を参考にすると、そこまでお金をかけて設置しなくてもよいと思う。2階建てのままか、1階の部屋を活用することで利用上は問題ない。
- 土地は広いので、平屋で建て替えもできると思う。バリアフリーにやすく、エレベーターがいらないので低コストで済む。
- 体の不自由な方や高齢者の利便性を考えると、2階建てでもエレベーターは住民へのサービスとして必要である。公共の施設として公平性が必要ではないか。簡易エレベーターでもよいので設置してほしい。
- 多様な人が利用しやすいバリアフリー機能、多目的トイレは整備してほしい。
- 図書室は使い方が分かれば使いたいので残してほしい。
- 大江山の歴史、親子で読める絵本、雑誌類などを配置し、他の書籍は市の貸し出しシステムが利用できればよい。
- 農改センター内で、ネット利用の本の貸し出しができるようになるなら、図書室をなくすることは理解できる。

- 若者や子どもたちの利用率を上げるために、若い世代のニーズを把握し、図書室や交流室にマンガを置いたり、学習スペースや親子の居場所を整備したり、運用を工夫する必要がある。
- 子育て世代が利用しやすいように、プレイルームや授乳室の設置など、子育て機能を充実させてほしい。
- 柔軟に使える部屋を確保し、多様な利用者が集まる工夫ができるとよい。廃墟のような部屋があり、人が寄りたくない状況を変えたい。
- 津波、洪水の避難所機能としての3階建て

の建て替えは必要ない。土地が広いので平屋で建て替え、空いたスペースに防災機能も盛り込んだ多目的公園を整備してはどうか。

- 農改センターは災害時に配慮した改修、整備が必要。備蓄倉庫やシャワー設備を整えるなど防災拠点としての複合施設にするべきだ。
- 避難所機能を合わせた建て替えが一番良い。建て替えるときは地盤の高い水害の心配のない場所に建て替える。
- 現在2ヶ所に分かれて使いづらい駐車場を一か所にまとめてほしい。

2. 老人憩の家

- 憩の家は利用者が少なく、駐車場もなくして利用しづらい。今後、利用が増える見込みもなく、居場所機能は各集会所で吸収できるので、もっと早く廃止してもよいのではないか。

- 寄付をして設立した人々の気持ちも大切に、簡単に廃止ではなく、管理費などを見直して、建物や風呂を修理しながら少しでも寿命を延ばして。

3. その他

- 住民の生活に関わる文化、教育、生涯学習などの活動を支える公民館機能をもっと充実させたい。
- 全体的に機能縮小の話ばかりになり、建設的な議論がしづらい。第1回WSのような夢のある意見交換ができるとよい。
- 今回のWSを機に未来を見据えたまちづくりプランが必要だ。この地区は人口が増えているメリットを活かして施設利用を考えたい。
- 農改センターはPRに力を入れ、Wi-Fiの導入や地域住民の利用を優先するなど、利用率向上に努めるべきである。

- 老人憩の家や、各自治会館など高齢者が歩いて行ける距離にある地域のお茶の間などの居場所は必要。
- 災害内容によって避難所や避難経路が異なるが、市の想定通りに避難できるのか確認して検討してほしい。小中学校は指定避難所となっているので、災害時は教室の開放を間違いなくしてもらいたい。
- 新しい施設は全て有料化する。
- 公共施設の予算配分に旧市内と旧市外の間不公平があるように感じる。旧市外の方が手厚いのではないかな。
- 改修や建て替えの青写真がほしい。

第3回WSで再配置案作成のためのポイントと考え方を整理しました

第3回WSでは、P4とP5の資料を使用し、再配置案を作成するためのポイントと考え方を整理しました。この資料は各施設の整備方法や機能の考え方のパターンを示したものです。今後、これまで出された意見などを基に、パターンを組み合わせ、再配置案を作成していきます。

再配置案の検討パターンのポイントと考え方①

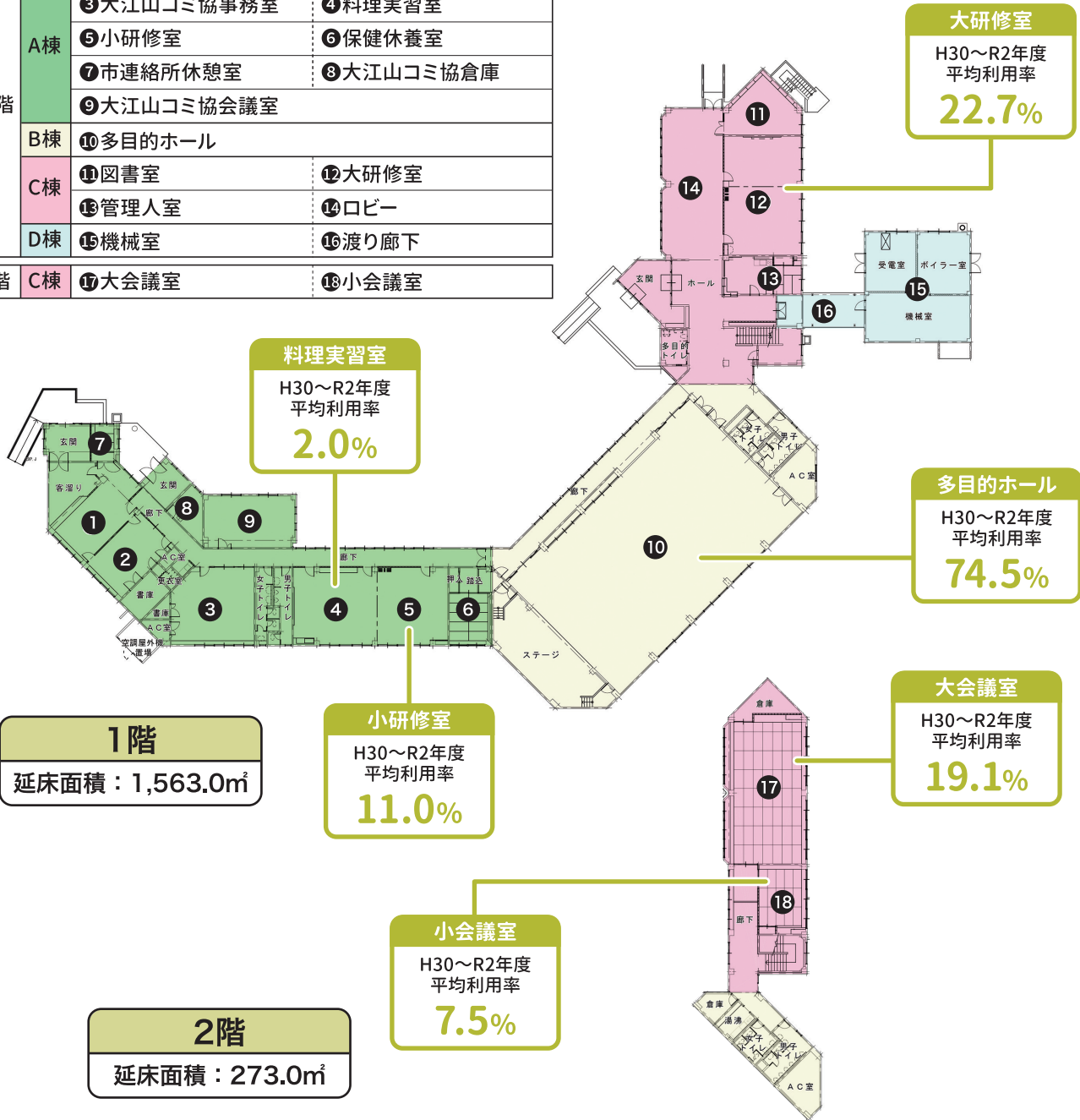
WS等の意見	農改センター大規模改修パターン	
	対応方針	ポイントと考え方
大江山農村環境改善センター		
整備方法	大規模改修	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の利用状況及び施設耐用年数に余裕があり、改修により活用可能 ● 大規模改修により現状の施設スペースを有効活用し、地域ニーズに合った機能の新設・拡充 ● 機能拡充し、地域の拠点施設として整備
エレベーター設置	設置しない	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造上、エレベーター設置可能な場所は限定的 ● (仮に設置した場合) 2階の動線となる部分に貸室が重なるため、2階貸室の面積が減少 ● 2階の2室に対してエレベーターを設置することは、費用対効果が低く、財政的負担が大きい(他施設の事例では概ね3,000万円程度必要) ● 2階の貸室は、1階A棟の貸室及び会議室をリフォームすることで代替可能 上記から、未設置でも地域課題を解決(階段の昇降を解消)し、市の財政的負担も軽減が可能
既存機能の維持	概ね可能	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の施設面積を有効活用することで、一部機能の縮小はあるものの、概ね全ての機能を維持しつつ、他の機能の拡充が可能(2階の貸室を1階に集約する)
多目的ホール	存続	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ等の利用や地域イベントの会場など、地域で重要な役割を担っているため現状のまま存続
キッチン機能(料理実習室)	改修転用	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用率(平均2.0%※)の低い料理実習室は多用途で活用できる貸室へ改修 ※H30～R2の3か年度 ● イベント・災害時等での使用に配慮し、改修後もキッチン機能は一部存続
その他貸室	拡充	<ul style="list-style-type: none"> ● 未利用スペース・低利用室をニーズに合った仕様に変更や老人憩の家のコミュニティ機能を集約することにより、貸室機能の拡充と利便性の向上(ほかの機能を拡充させることで貸室の面積減の可能性あり)
図書室	用途転用 ※受取サービス継続	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日あたりの利用者が1～2人で、貸出冊数も約10冊/日(市全体の中央値以下 中央値47冊/日※) ※H28～H30の実績より ● 地域内の図書サービスを確保するため、予約本受取サービスは連絡所において継続 ● 学習スペースや親子の居場所の整備意見に対応 上記から、図書室を廃止し、親子の居場所や学習機能への転用
各種機能の拡充	可能	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の施設面積を有効活用し、ニーズに合った機能の拡充
学習スペース	整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の拠点として、若者等も活用しやすい学習スペースを整備
子どもから高齢者まで多世代の居場所機能	整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記、学習スペースとあわせて交流の拠点となるスペースを整備
バリアフリー化(段差解消・トイレ改修など)	改修	<ul style="list-style-type: none"> ● 貸室を1階へ集約・フロアの段差解消(靴の履き替え不要) 改修・トイレの整備など、バリアフリーに配慮した大規模改修
災害時の防災機能	一部対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設面積の大部分が1階に集中しているため、洪水災害時は使用できない可能性あり ● 耐震性があり、地震発生時に一時避難の施設としての機能は果たせる ● 市の指定避難所(大江山中、丸山及び大淵小)で避難想定人数の収容スペース確保済み
外構の整備	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場の白線引き直しなどの修繕
老人憩の家		
風呂機能	将来的に廃止	<ul style="list-style-type: none"> ● 「新潟市公共施設の種類ごとの配置方針」で「入浴設備の更新はしない」としており、将来的に設備改修が困難となった時点で廃止
コミュニティ機能の存続多世代の利用	将来的に集約化	<ul style="list-style-type: none"> ● 「新潟市公共施設の種類ごとの配置方針」で「老朽化や利用率が著しく低い施設は廃止を検討」としていることから、大江山荘(築44年)・大淵荘(築29年)のコミュニティ機能を農改センターに将来的に集約 ※施設が使用できる範囲において、当面使用可能

再配置案の検討パターンのポイントと考え方②

WS等の意見	農改センター建て替えパターン	
	対応方針	ポイントと考え方
大江山農村環境改善センター		
整備方法	建て替え	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能拡充し、地域の拠点施設として建て替え（既存施設は除却） ● 過度な財政負担とならず現状の利用を確保する施設規模で建て替え貸室（3室程度）+コミ協事務室確保（総面積（見込み）：660㎡～860㎡）※連絡所面積を含む ● 災害を心配する意見に対応した3階建てを想定 ● 新築により老朽化を解消
エレベーター設置	設置する	<ul style="list-style-type: none"> ● 建て替えにあわせて整備 ● エレベーター設置により、施設のバリアフリー化を図る ※ただし、3階建てにすることで、使用可能な床面積が減少するため、建設方法については、基本構想・設計時に要検討
既存機能の維持	縮小	● 地域の重要な役割を担っているホール機能の存続は困難。その他機能についても、大幅に縮小の可能性があり
多目的ホール	廃止	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記面積内で現状と同規模の施設整備は困難 ※スポーツでの利用や地域イベントに支障あり
キッチン機能（料理実習室）	整備	● イベントや災害時の仕様に配慮し可能な範囲で整備
その他貸室	整備（縮小）	<ul style="list-style-type: none"> ● 貸室機能は存続（面積は大幅減） ● レイアウトの工夫により、現在の大会議室と同規模程度の貸室整備は可能
図書室	用途転用 ※受取サービス継続	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日あたりの利用者が1～2人で、貸出冊数も約10冊/日（市全体の中央値以下 中央値47冊/日※） ※H28～H30の実績より ● 地域内の図書サービスを確保するため、予約本受取サービスは連絡所において継続 ● 学習スペースや親子の居場所の整備意見に対応 上記から、図書室を廃止し、親子の居場所や学習機能への転用
各種機能の拡充	可能な範囲整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人憩いの家のコミュニティ機能の集約と学習スペースや多世代の居場所などを整備 ※ただし、施設規模にあわせて、どの機能を優先していくのか要検討
学習スペース 子どもから高齢者まで多世代の居場所機能		
バリアフリー化（段差解消・トイレ改修など）	整備	● 建設時にバリアフリーに配慮
災害時の防災機能	可能	<ul style="list-style-type: none"> ● 3階建てのため、洪水災害時は2階以上が一時避難スペースとして使用可能 ● 面積は、大幅削減となるため、避難可能人数は少ない ● 耐震性があり、地震発生時に一時避難の施設としての機能は果たせる ● 市の指定避難所（大江山中、丸山及び大淵小）で避難想定人数の収容スペース確保済み
外構の整備	—	● 建て替えにあわせて駐車場などの外構を整備（機能拡充も検討）
老人憩いの家		
風呂機能	将来的に廃止	● 「新潟市公共施設の種類ごとの配置方針」で「入浴設備の更新はしない」としており、将来的に設備改修が困難となった時点で廃止
コミュニティ機能の存続 多世代の利用	多世代利用に転用後集約	<ul style="list-style-type: none"> ● 「新潟市公共施設の種類ごとの配置方針」で「老朽化や利用率が著しく低い施設は廃止を検討」としていることから、大江山荘（築44年）・大淵荘（築29年）のコミュニティ機能を農改センターに将来的に集約 ● なお、両施設とも使用できる範囲において、当面使用可能とし、大淵荘は、存続する期間において、多世代で利用できる施設に転用
いずれの案でも反映していない意見		
歩いて行けるところの施設	● 公共施設の適正化と施設の効率的な活用に取り組む中、両パターンとも将来的に地域に分散していた施設を拠点施設（農改センター）に集約し、地域交流を活性化。一部地域の方は、利便性低下	
自治会館を併設したホール施設	● 全市的な配置方針上、ホール施設の新設は困難。自治会館については、各自治会で所有するもののため、再配置案には、反映しない。	
図書館・スポーツ施設など施設を8区に分散する	● 地域及び区を超える提案のため、地域別実行計画では検討対象外	
経済活動ができるスペース	● 経済活動に特化した施設ではなく、施設や外構整備の中で、多目的に活用できるスペースを確保することで対応可能（今後の基本構想等で検討や付帯事項とする方向で検討）	

大江山農村環境改善センター

1階	A棟	①市連絡所事務室①	②市連絡所事務室②
		③大江山コミ協事務室	④料理実習室
		⑤小研修室	⑥保健休養室
		⑦市連絡所休憩室	⑧大江山コミ協倉庫
		⑨大江山コミ協会議室	
	B棟	⑩多目的ホール	
	C棟	⑪図書室	⑫大研修室
		⑬管理人室	⑭ロビー
	D棟	⑮機械室	⑯渡り廊下
2階	C棟	⑰大会議室	⑱小会議室



年平均利用率:年間利用コマ数 / 年間利用可能コマ数 (午前・午後・夜間の3コマ×開館日)

みなさんのご意見やアイデアをお寄せください。
いただいたご意見は、次回6月のWSの検討内容に反映させます。

みなさんの
アイデア
お待ちしております!



ご意見・お問い合わせはこちらまで

大江山地域実行計画コミュニケーション事務局

電話 025-382-4619

郵便 〒950-0195 江南区役所地域総務課あて (住所不要)

FAX 025-381-7090

電子申請 「かんたん申込み」サイト (右の二次元コード)

